

高い効果 高い費用

女性特有のがんのなかでも20～30代での発症が急増している子宮頸がん。原因となるウイルスの感染を予防するワクチンが昨年10月に日本でも初めて承認され、12月から任意接種が始まっている。発症予防の効果は高いが、費用も高い。助成を決める全国の自治体が徐々にある中、県内の自治体も助成に踏み切り始めた。

子宮頸がん予防ワクチン接種

がん防げる唯一のワクチン

子宮頸がんは子宮の入り口付近にできるがんで、ヒトパピロームウイルス（HPV）というウイルス感染が原因だ。100種類ほどあるウイルスのうち、多く見つかっている二つの型の子宮頸がんの原因となるのは15種類。感染を防ぐためのワクチンが、

■少ない接種人数

発がん性HPVの中でも、日



伯耆、若桜町が助成制度

日本でも昨年承認され、任意での接種が可能になった。特に10代前半での接種が高い効果を得られるが、半年間で3回の接種が必要となり、1回1万5千円と費用も高額だ。

鳥取市目黒1丁目の鳥取市立病院産婦人科では、1月からワクチン接種を始めた。5月時点で

高校生から40代まで、延べ60人以上に接種した。担当の長治誠医師は接種人数について「想定よりもとても少ない」という。「接種を始めることになってから問い合わせは

■もっと重要視を

かなりあったので、周知不足ではなく、やはり費用の高さがネックではないか」と指摘する。

■公費負担の動き

ワクチン接種と子宮がん検診によって、より有効ながん対策になると、全国では接種費用の助成を行う自治体が出てきている。東京都杉並区が中学1年生を対象に接種費用を全額助成。栃木県大田原市も小学6年生に



子宮頸がん予防ワクチンの接種を受ける女性。予防効果の高さから10代前半での接種が望まれるが、費用の高さがネックとなっている＝鳥取市市場1丁目の鳥取市立病院

長治医師は「今、がんを防げる唯一のワクチンだということをもっと重要視してほしい。少子化対策の一つにもなるはずで、自治体助成の広がりが将来は国の定期接種になることを期待する」と話している。